

## 2010年3月期決算説明会資料

～09年度事業構造改革を完遂、10年度はV字型回復へ～

2010/4/26

© 株式会社日立ハイテクノロジーズ

執行役社長 大林 秀仁

## 2010年3月期 決算説明会

**I** 2010年3月期 決算概要

**II** 2011年3月期 経営方針

**III** 2011年3月期 業績予想

**IV** 参考：データ集

## I 2010年3月期 決算概要

(注)YY/MはYY年M月期を表しています。

# 2010年3月期決算(ハイライト)

(億円)

	当期実績	前年同期比		前回予想比	
		増減額	増減率	増減額	増減率
売上高	6,169	△1,581	△20%	+169	+3%
営業利益	△16	△165	—	+37	—
経常利益	△5	△170	—	+40	—
当期利益	△28	△99	—	+25	—
一株利益	△20円55銭	△71円99銭		+17円98銭	
一株配当	15円00銭	△15円00銭		+5円00銭	
ROE	△1.2%	△4.2%		—	
FIV	△122	△101		—	
FCF	+141	+17		—	

\* 前回予想(2010年1月公表値)

# 2010年3月期決算(偏差説明)

## 対前回予想値偏差説明

### 1. 売上高・営業利益(2010年1月3Q決算発表時比較)

売上高 ( 6,000億円 → 6,169億円 +169億円 )

■電子デバイスシステム:半導体製造装置への投資回復等により21億円増加

■ライフサイエンス:医用分析装置の好調等により20億円増加

■情報エレクトロニクス:米国市場向け携帯電話取引の売上増等により50億円増加

■先端産業部材:素材価格の上昇及び自動車部品の需要回復等により78億円増加

営業利益 ( △53億円 → △16億円 +37億円 )

■電子デバイスシステム:半導体製造装置の売上増及び操業度改善等により22億円増加

■ライフサイエンス:医用分析装置の好調等により8億円増加

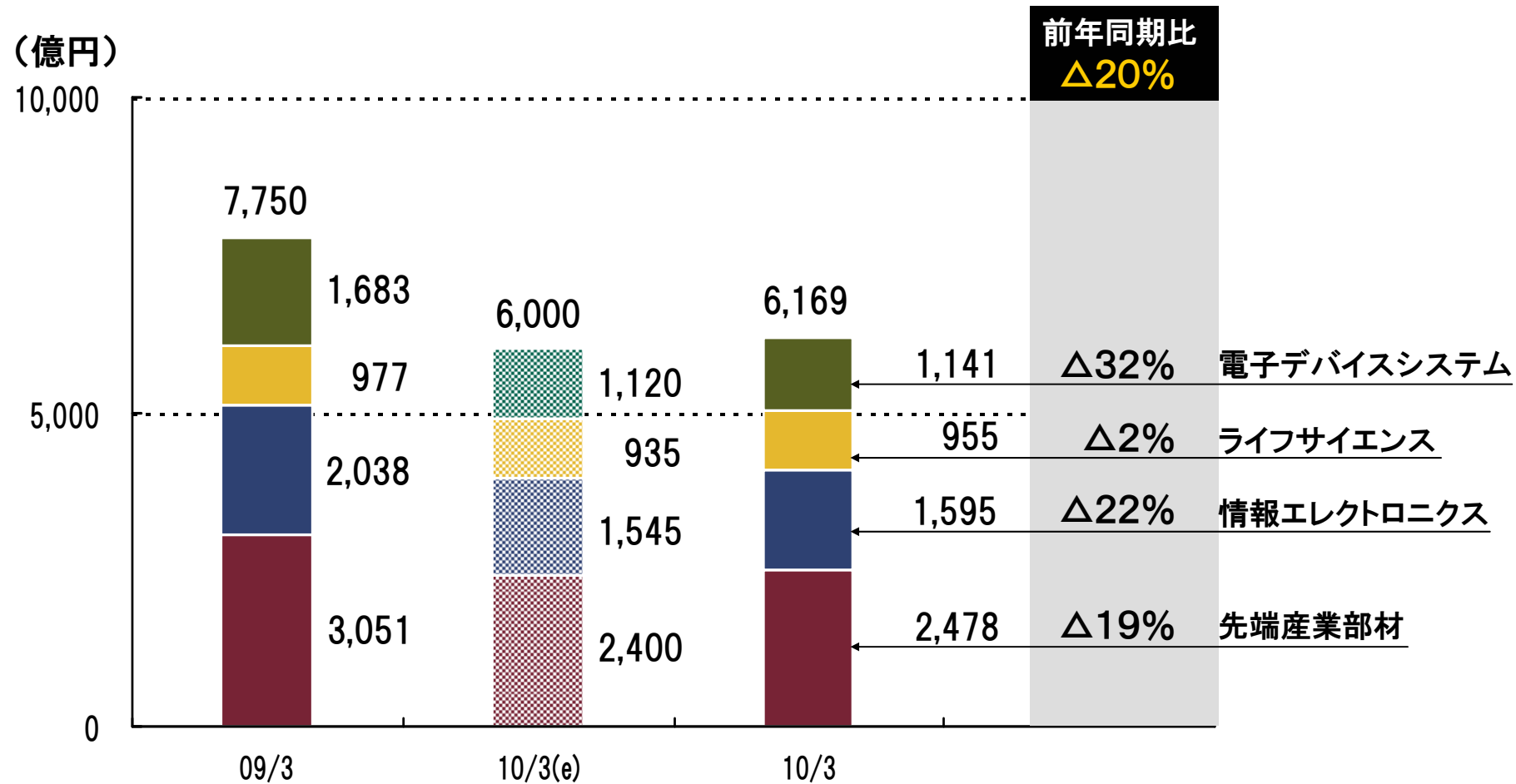
■情報エレクトロニクス:米国市場向け携帯電話取引の売上増等により5億円増加

### 2. 事業構造改革(2009年10月2Q決算発表時比較)

	前回予想	実績	偏差
固定費削減	△85億円	△85億円	±0億円
人員の適正化	△1,450人	△1,500人	△50人

# 2010年3月期決算(セグメント別売上高)

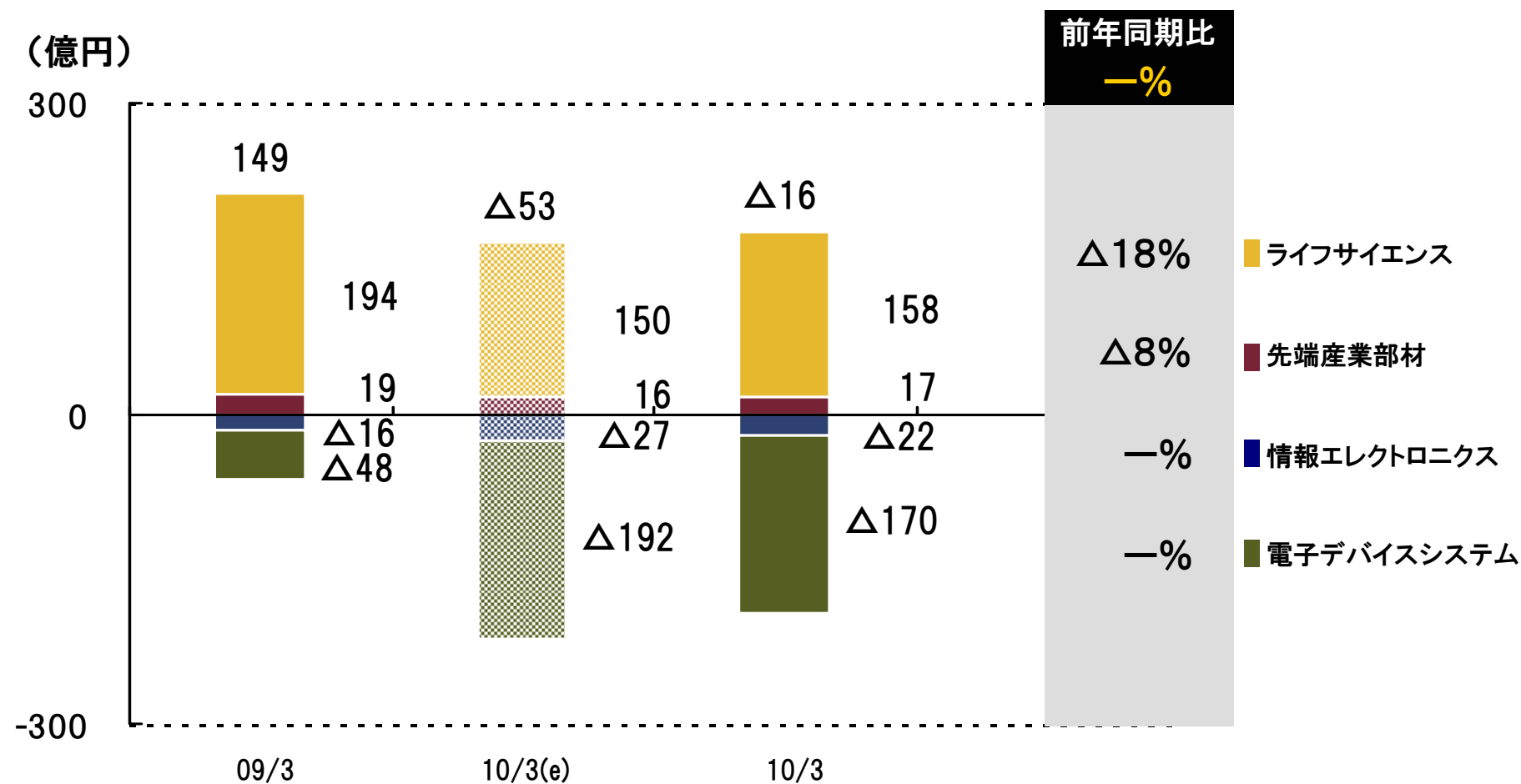
## 売上高



(e)は前回予想(2010年1月公表値)

# 2010年3月期決算(セグメント別営業利益)

## 営業利益



(e)は前回予想(2010年1月公表値)

# 2010年3月期決算(損益計算書〔要約〕)

2010年3月期

(億円)

	当期実績	前年同期比	
		増減額	増減率
売上高	6,169	△1,581	△20%
売上原価	5,377	△1,330	△20%
売上総利益	792	△250	△24%
販売費及び一般管理費	808	△85	△10%
営業損失	△16	△165	—
営業外収益	19	△6	△25%
営業外費用	8	△2	△20%
経常損失	△5	△170	—
特別利益	6	△3	△35%
特別損失	22	△13	△37%
税金等調整前当期純損失	△21	△160	—
法人税等	7	△61	△90
当期純損失	△28	△99	—



# 2010年3月期決算(貸借対照表〔要約〕)

2010年3月末（億円）

			09/3末比				09/3末比
流動資産		3,248	△158	流動負債		1,557	△112
現預金、関係会社預け金	1,017	+118		支払手形及び買掛金	1,100	△38	
受取手形及び売掛金	1,445	△98		その他	457	△74	
たな卸資産	572	△148		固定負債		259	△4
その他	213	△30		退職給付引当金	253	△1	
固定資産		863	△7	その他	6	△3	
有形固定資産	559	△25		純資産		2,294	△49
無形固定資産	49	+7		株主資本	2,293	△56	
投資その他の資産	254	+12		評価・換算差額等	△1	+7	
				少数株主持分	3	+0	
資産合計		4,110	△165	負債及び純資産合計		4,110	△165

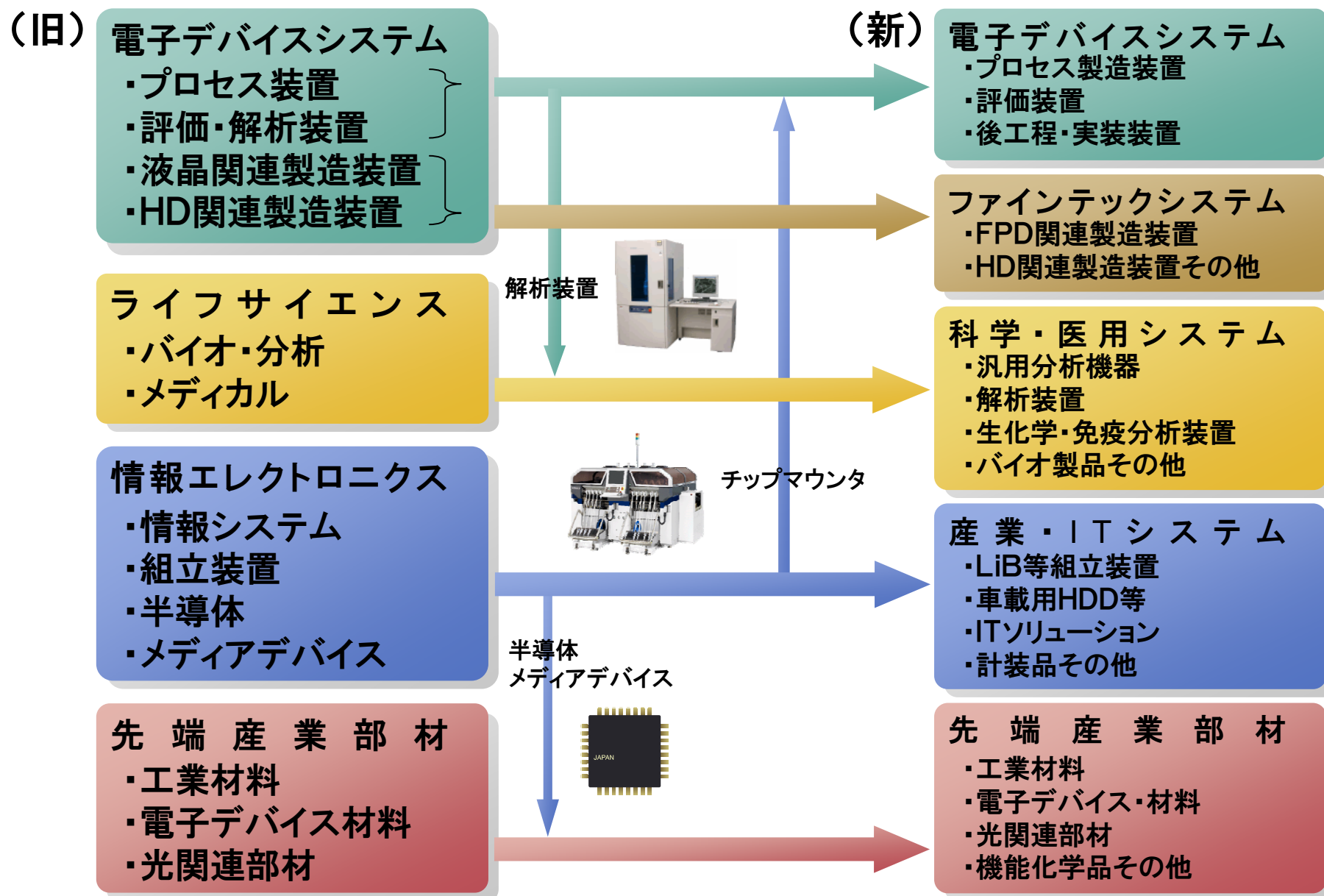
**日立ハイテク**  
HITACHI

Copyright©2010 Hitachi High-Technologies Corporation All Rights Reserved.

## Ⅱ

## 2011年3月期 経営方針

# セグメント区分の変更



## V字型回復の実現と 成長戦略の加速

### 1. 経営改革の着実なる実行

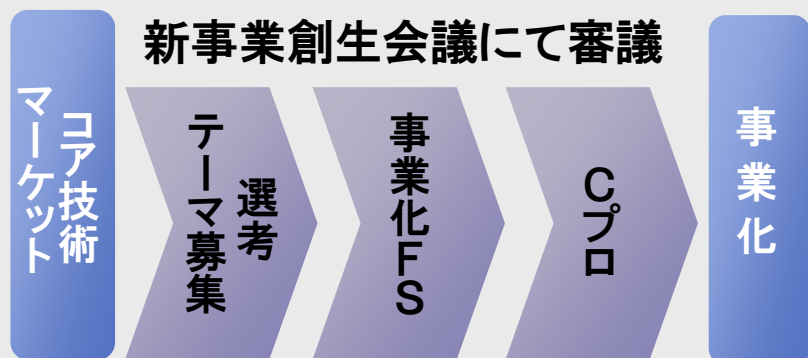
- 新事業創生活動の展開
- 真のグローバル企業への変貌
- 商事機能の強化
- キャッシュフロー経営の強化

### 2. 経営環境の変化に対応した事業戦略の遂行

High-Technology.  
先端技術の中に、高度なエコを。

# 経営改革の着実なる実行

## 新事業創生活動の展開



\*Cプロ: Corporate(全社)・Challenge(挑戦)プロジェクト

## 真のグローバル企業への変貌



## 商事機能の強化

- 商事部門を統括する  
商事戦略部門の新設  
(戦略機能)
- 環境・エネルギー部門の新設  
(伸長分野への注力)
- 高付加価値ビジネスへの移行促進  
(選択と集中)

## キャッシュフロー経営の強化

新経営管理制度の導入  
～連結CFの拡大再生産(TripleC)を推進～



セグメント	経営環境	事業戦略
電子デバイス システム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・半導体装置市場は過去ピーク未達と予想</li> <li>・微細化技術の開発継続</li> <li>・前工程から後工程への付加価値シフト（前工程微細化の物理的限界への近接）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポストセールス強化と非半導体分野への進出</li> <li>・微細化に向けた新製品の継続投入</li> <li>・後工程・実装システムを収益源に育成</li> </ul>
ファインテック システム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・液晶関連市場は中国向け投資増加により価格競争激化</li> <li>・HD関連市場は高密度化・増産により投資の動きあり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・抜本的原価低減の推進</li> <li>・新製品・新規事業へのリソースシフト</li> </ul>
科学・医用 システム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電顕市場は緩やかに伸長、新材料分析ニーズ高まる</li> <li>・体外診断市場・DNAシーケンサ市場は一桁成長</li> <li>・免疫は成長、生化学は飽和</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電顕・分析システム事業のシナジー創出</li> <li>・SCB*継続・深化による収益拡大 *System Collaboration Business</li> <li>・遺伝子等伸長市場での事業拡大</li> </ul>
産業・IT システム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エコ自動車（EV、HEV等）、環境・エネルギー（太陽光、風力等）市場の急成長</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エコ自動車・環境・新エネルギー関連市場への注力</li> </ul>
先端産業 部材	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新興国市場の台頭</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自社製品部門との協働による高付加価値事業の拡大</li> <li>・新興国市場でのビジネス拡大</li> </ul>

### Ⅲ

## 2011年3月期 業績予想

(注)YY/MはYY年M月期を表しています。



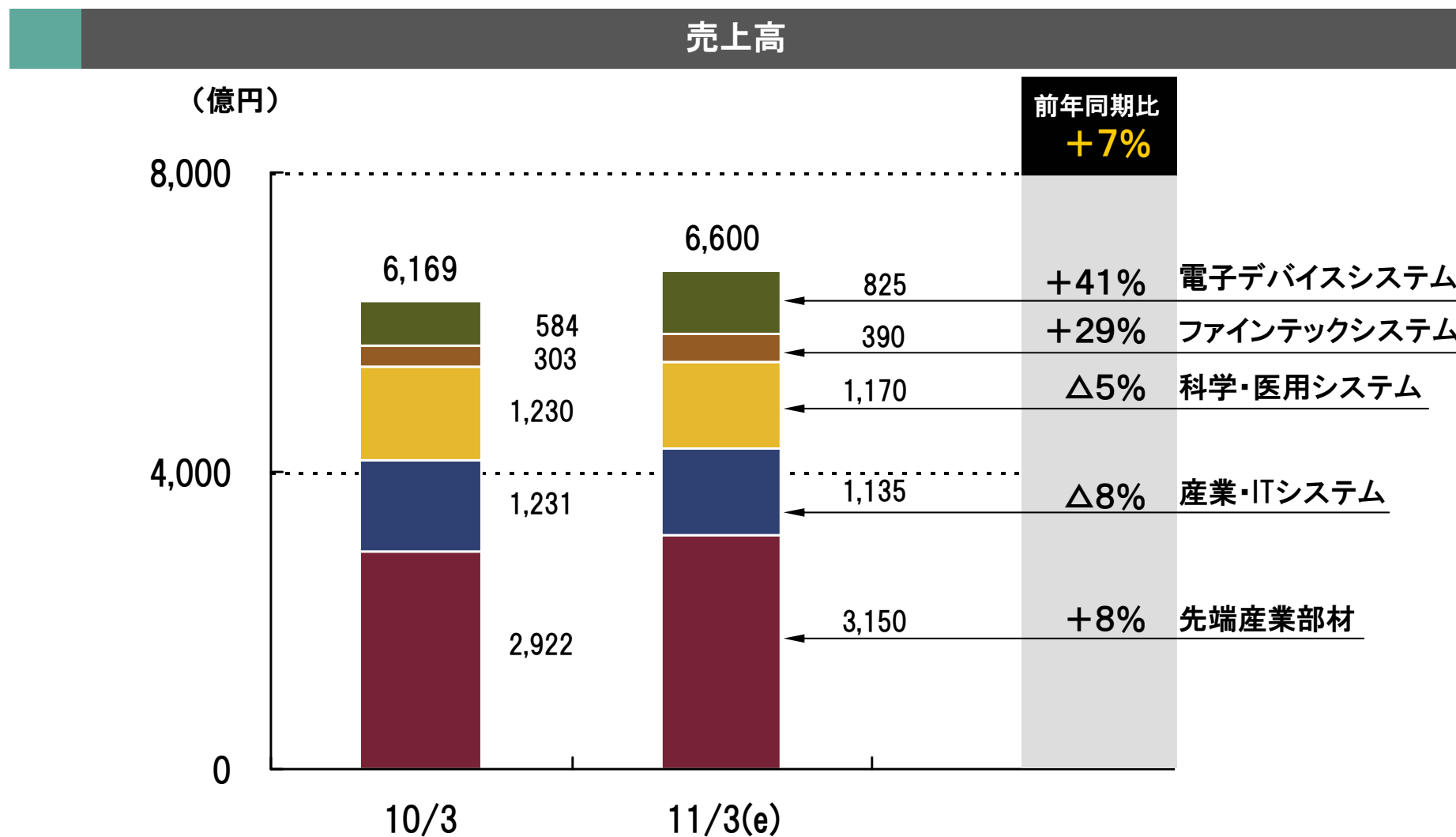
# 2011年3月期業績予想(ハイライト)

(億円)

	当年度予想	前年度実績	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	6,600	6,169	+431	+7%
営業利益	172	△16	+188	—
経常利益	175	△5	+180	—
当期利益	106	△28	+134	—
一株利益	77円07銭	△20円55銭	+97円62銭	
一株配当	20円00銭	15円00銭	+5円00銭	
ROE	4.6%	△1.2%	+5.8%	
FIV	△12	△122	+111	
FCF	+115	+141	△26	

(注)想定レート: 1USD= 85円  
1EUR=125円

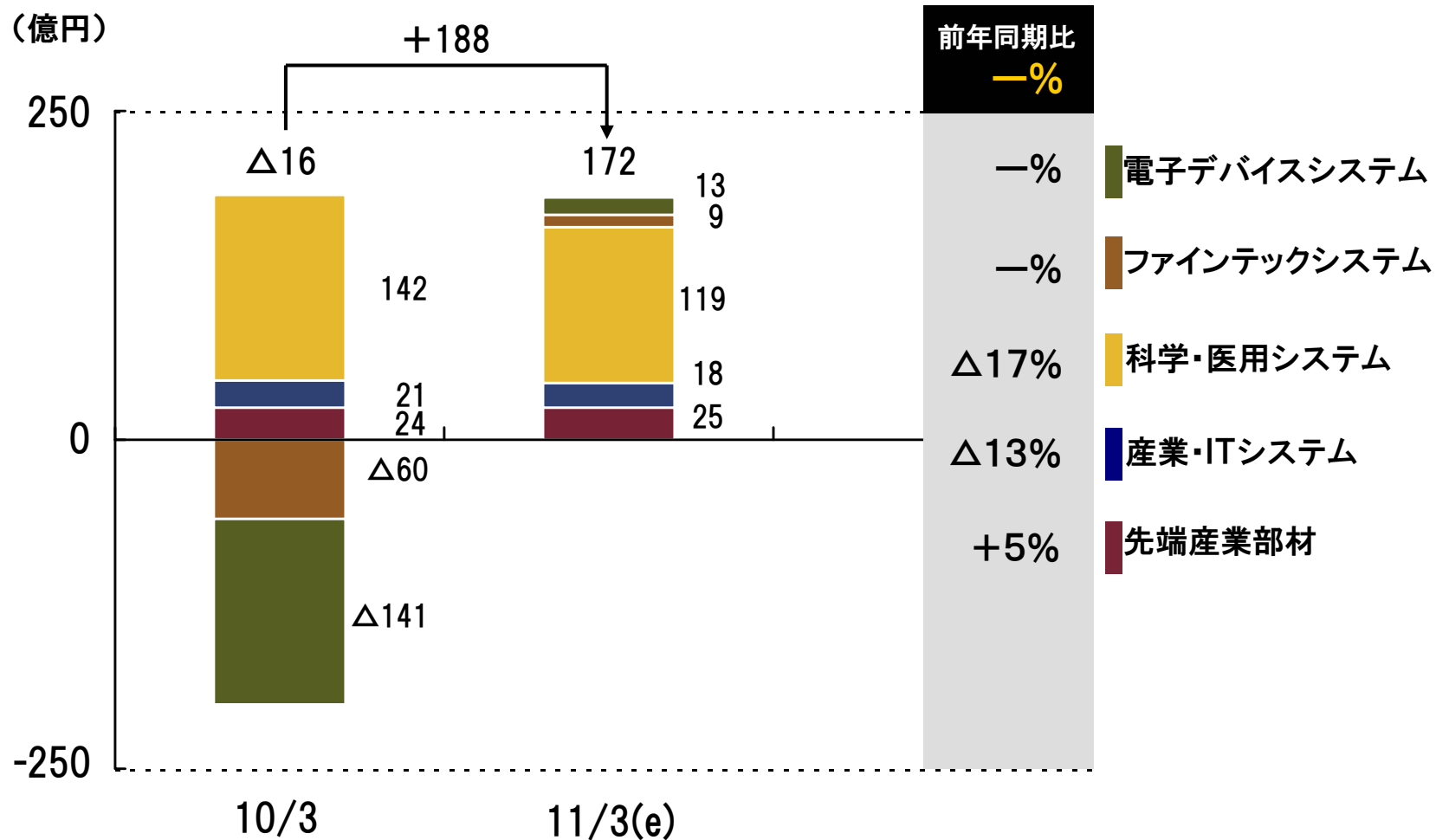
# 2011年3月期業績予想(セグメント別売上高)



(注)合計にはセグメント間の内部取引の消去等が含まれております。

# 2011年3月期業績予想(セグメント別営業利益)

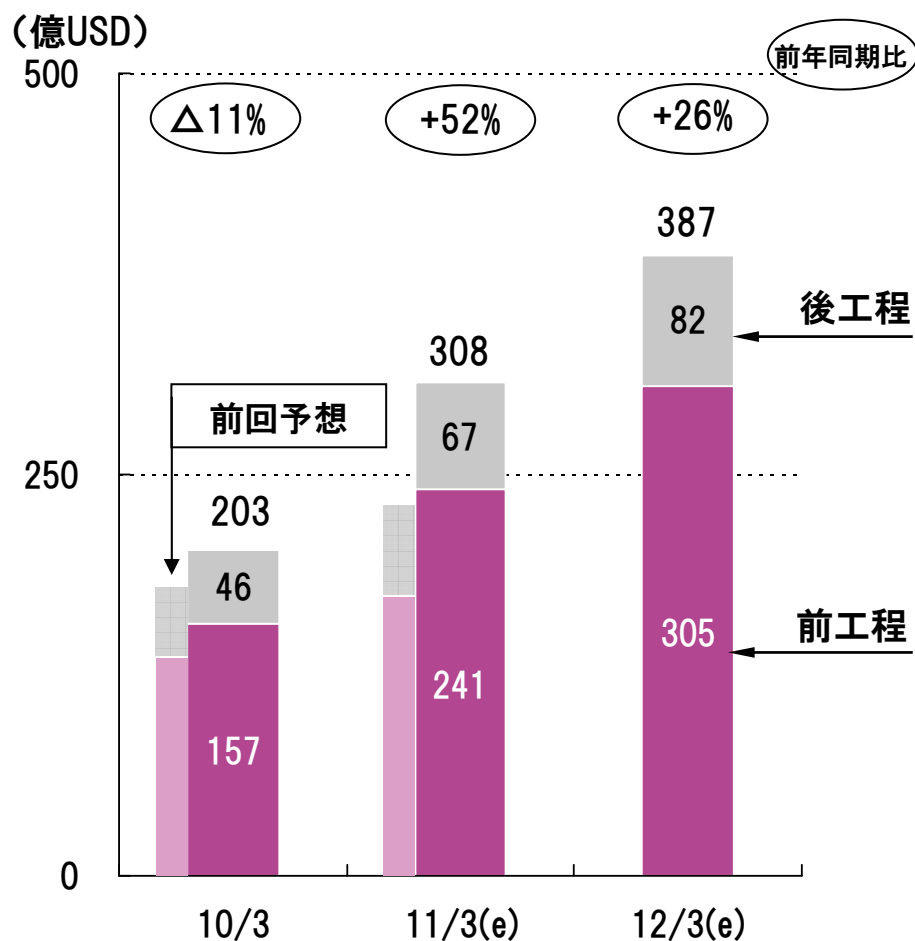
## 営業利益



(注)合計にはセグメント間の内部取引の消去等が含まれております。

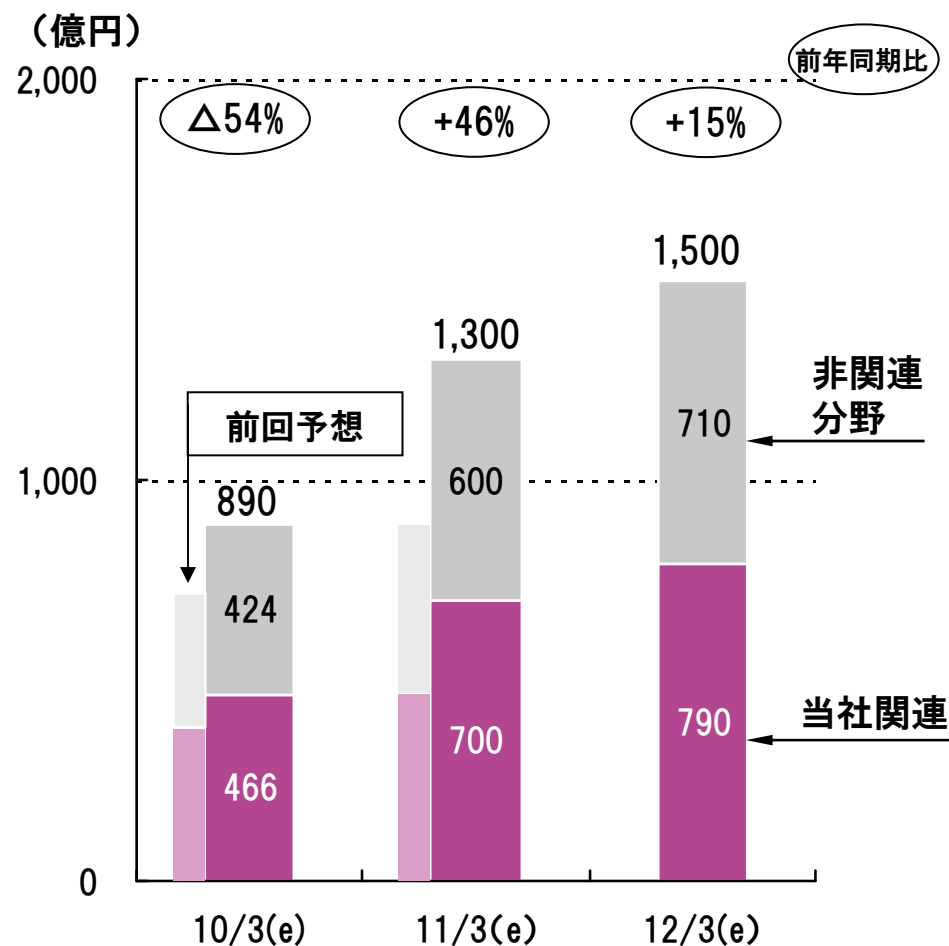
# 2011年3月期業績予想(電子デバイスシステム)①

## 半導体製造装置市場



(出所)Gartner(10年3月)および当社推測  
前回予想はGartner(09年9月) および当社推測

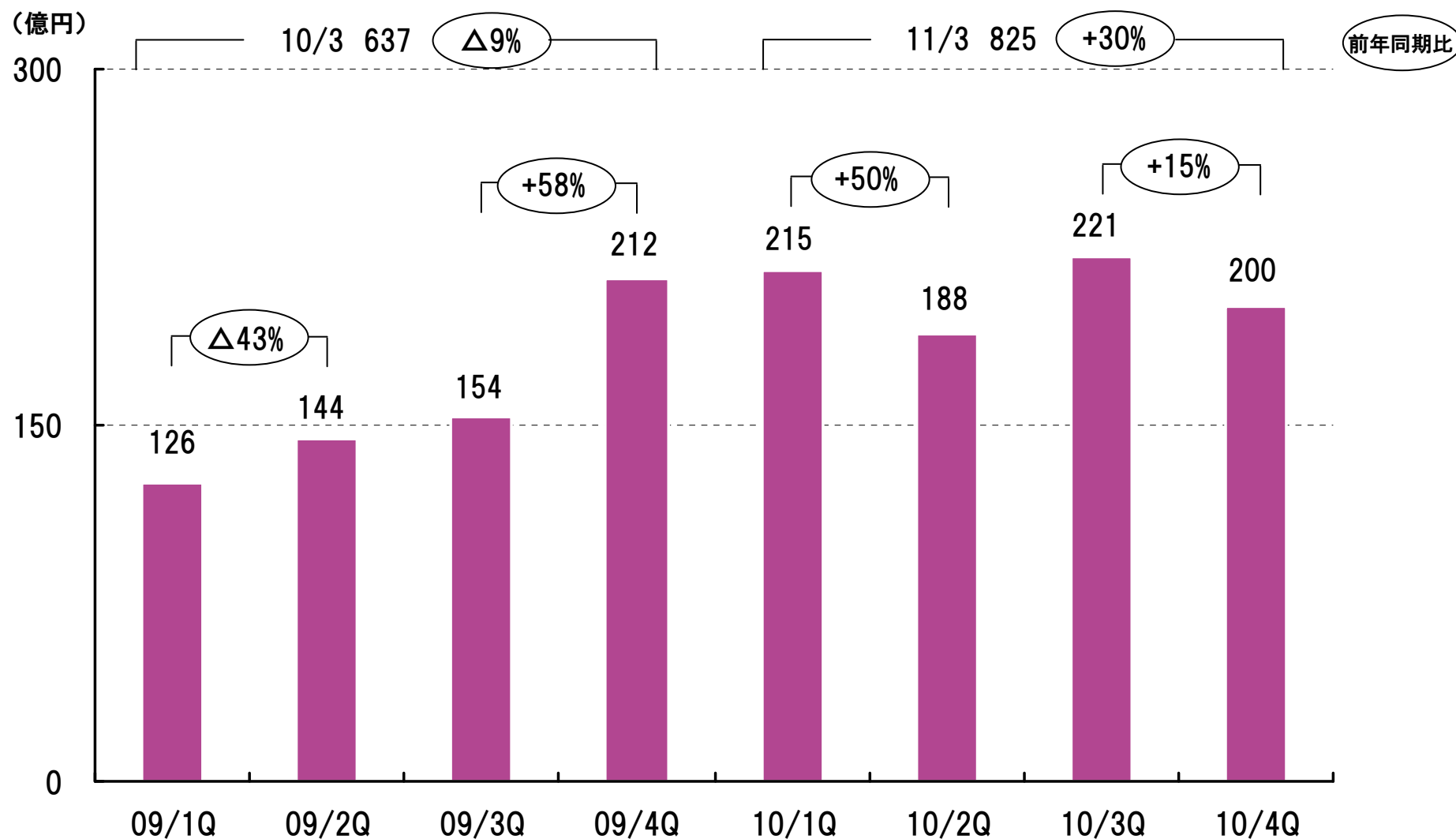
## 実装装置市場



(出所)日本ロボット工業会資料(09年12月)調査機関資料に基づき当社作成  
前回予想は09年10月の10年3月期2Q決算発表時の見通し

# 2011年3月期業績予想(電子デバイスシステム)②

## 受注高の推移

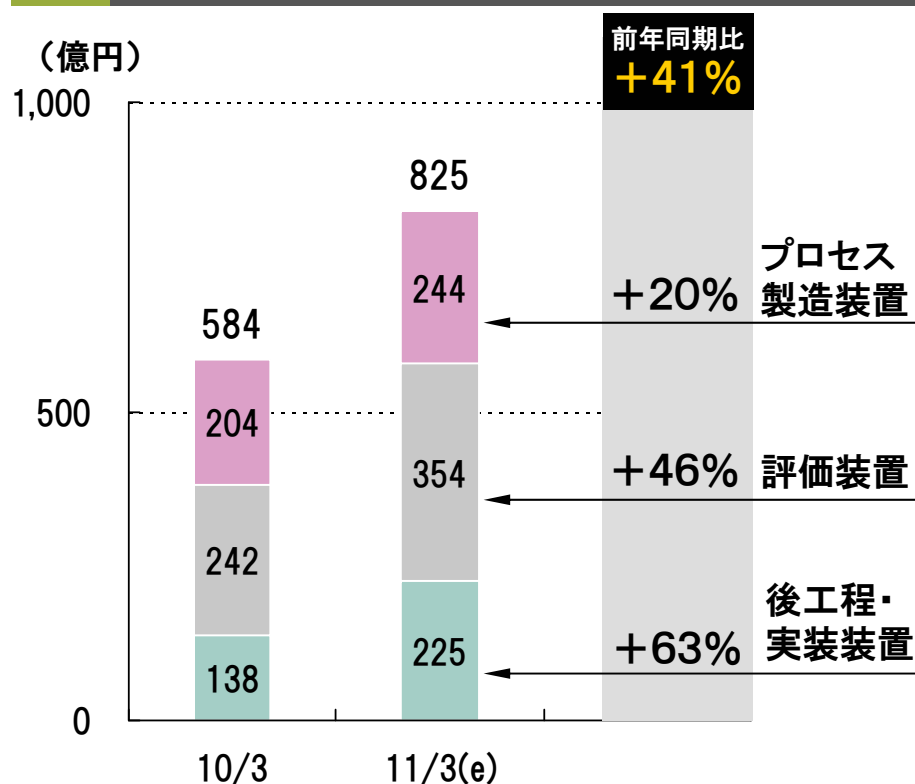


# 2011年3月期業績予想(電子デバイスシステム)③

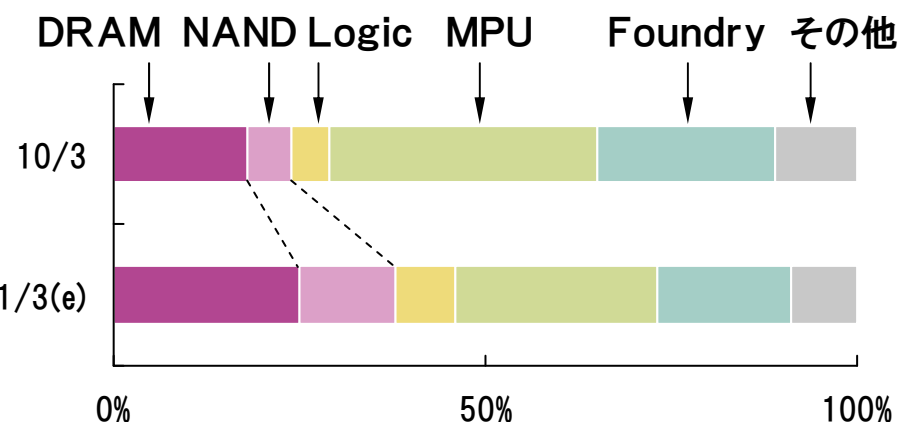
## 10年度基本戦略

1. 伸長分野への重点取組み
2. 微細化対応と独自優位分野の技術強化で設備投資の取込み

## 主要製品群別売上高の推移



## 前工程装置 分野別売上高比率



09年度:市場全体が縮小するなか、MPUメーカーからの売上確保  
 10年度:メモリーメーカーの投資再開により  
 DRAM、NANDの割合上昇、08年度並に

## ●半導体メーカー設備投資 再開(DRAM、NAND、MPU、ASSP)



### 微細化対応

- 複雑化するOPC\*
- DP \*など新技術導入
- HK/MG\*など新材料採用

- 計算機リソグラフィ対応  
新測長SEMアプリ
- DP対応 合せ精度計測アプリ
- 先端ゲート加工エッチング装置

\*OPC : Optical Proximity Correction \*DP : Double Patterning \*HK/MG : High-k / Metal Gate

### 新製品の投入



測長SEM  
CGシリーズ



設計データ応用  
計測システム  
DesignGauge  
シリーズ

〔効果〕

- 開発期間短縮
- 生産性向上

### 独自優位分野

- HDDヘッド、エンベデッド  
メモリー等伸長デバイス対応
- 顕在化する歩留り低下  
要因への対応

- 不揮発性材料エッチング
- レビューSEM  
設計データ活用アプリ拡大



EMCPエッチャー  
Eシリーズ



レビューSEM  
RSシリーズ

〔効果〕

- システムティック欠陥の  
早期発見
- 歩留り改善

## ● メモリー後工程市場の伸長

NANDアプリケーションの拡大

**大容量化対応**

■高集積3次元実装

ハイエンド向けDRAM

**高速伝送対応**

■新型パッケージ

- 薄膜ハンドリング制御機構採用
- 多段積層対応高精度合わせ機能
- フリップチップ対応  
高速ボンディング機能



(NAND/SiP対応)  
DB-800シリーズ



(DRAM対応)  
CM-700シリーズ

〔効果〕

- 生産コストダウン
- 品質・信頼性向上

## ● 表面実装市場の拡大

**部品の多様化**

■多品種 ■小型・薄型化

**高速・高密度実装**

■高生産性 ■高信頼性

**新興地域への拡大**

■高品質 ■操作性

- 多品種対応高速ヘッド・  
簡易段取換え機能採用
- 最先端メカ&制御技術応用
- 高効率生産対応  
スマートオペレーションシステム



モジュラーマウンタ  
G4



G5



印刷装置  
P4

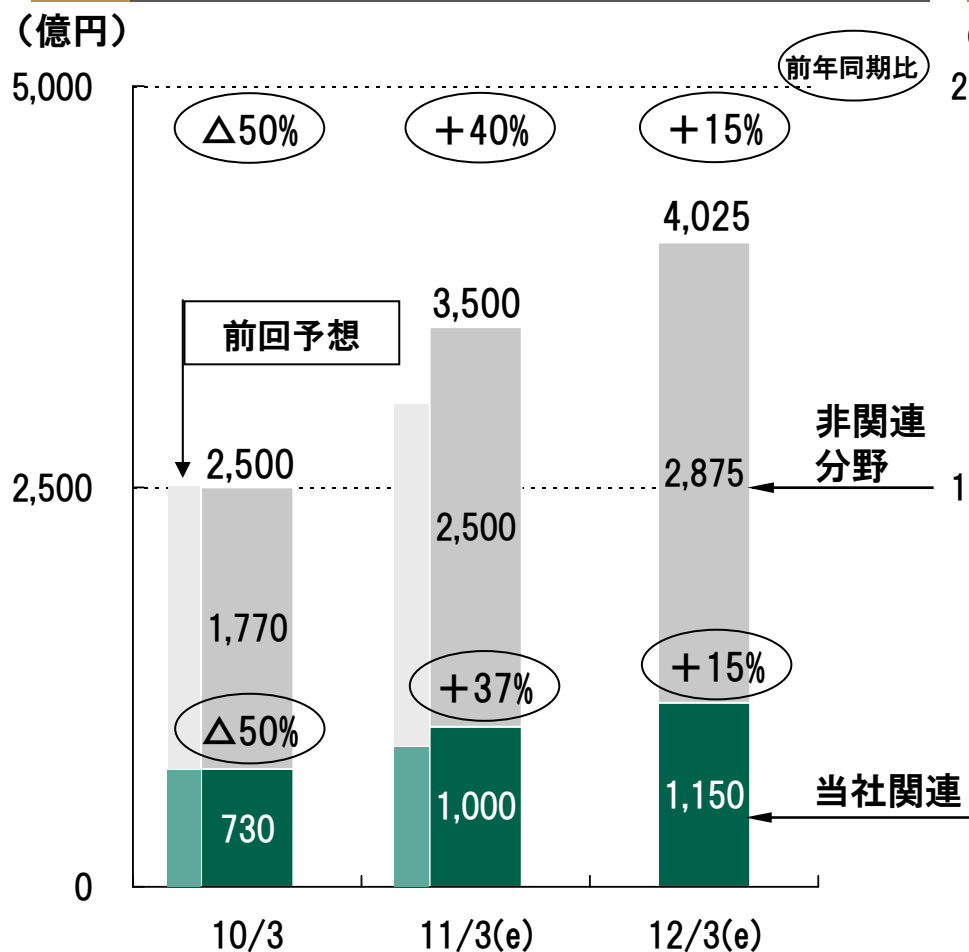
〔効果〕

- フレキシブルな生産対応
- ダウンタイムの軽減



# 2011年3月期業績予想(ファインテックシステム)①

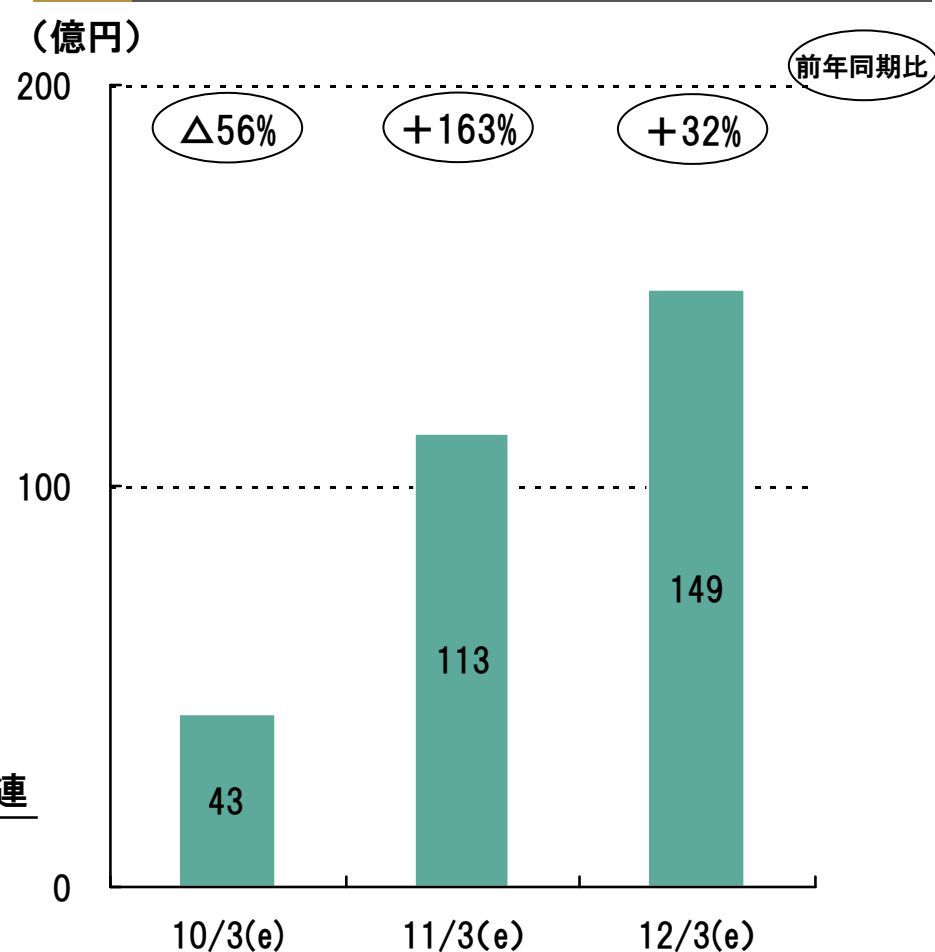
## 液晶関連製造装置市場



(出所)SEAJ(10年01月)日本製装置市場データに基づき当社にて推測

(注)前回予想は、09年10月の10年3月期2Q決算発表時の見通し

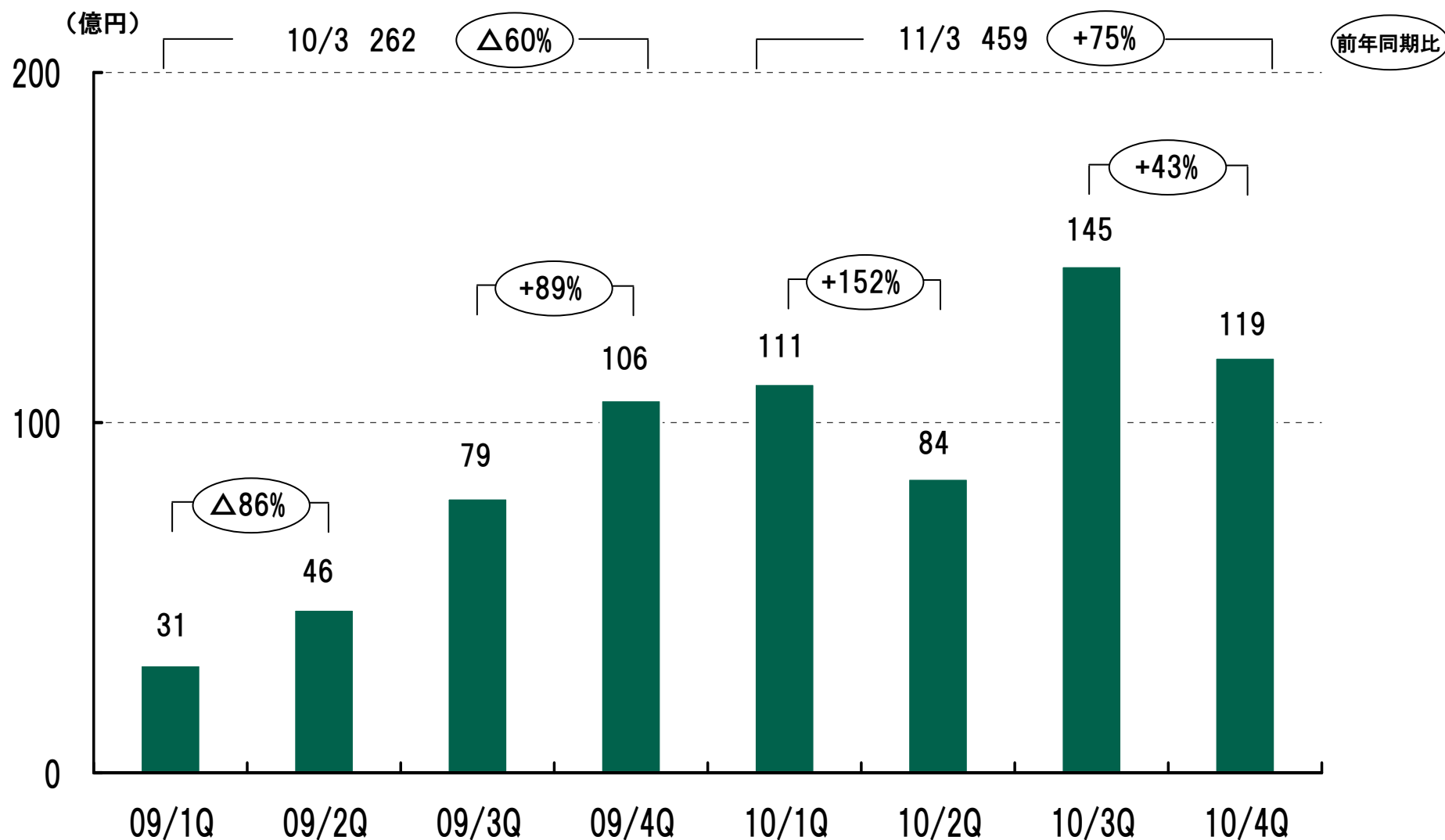
## HD関連製造装置市場(当社関連)



(出所)当社推測

# 2011年3月期業績予想(ファインテックシステム)②

## 受注高の推移

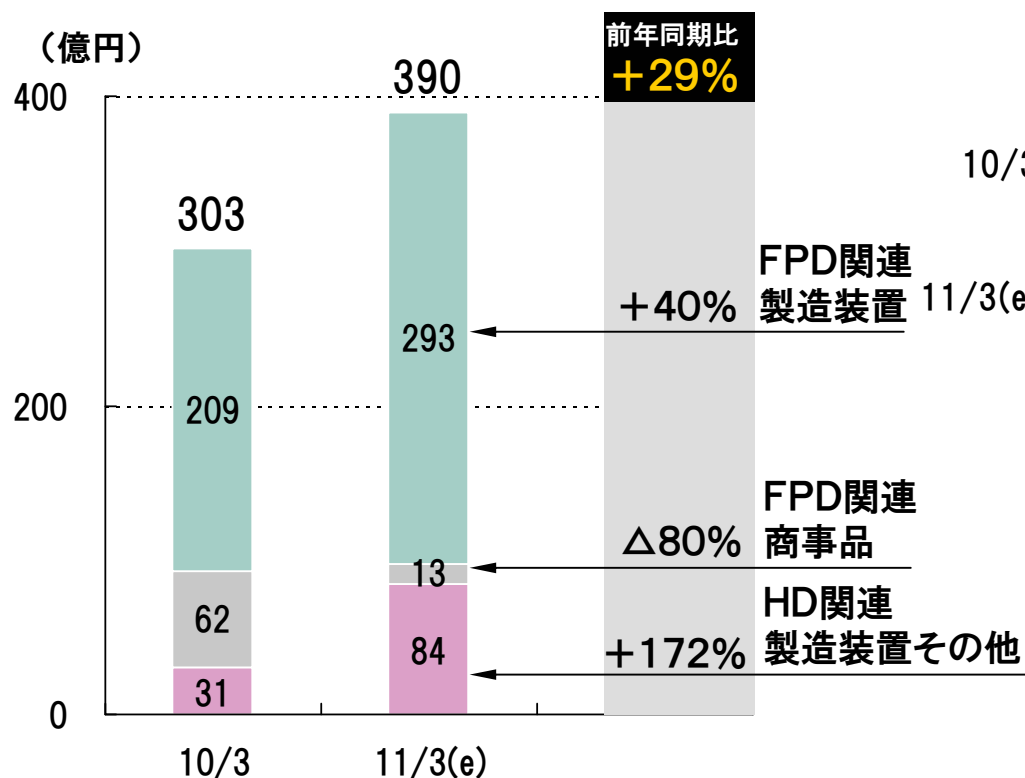


# 2011年3月期業績予想(ファインテックシステム)③

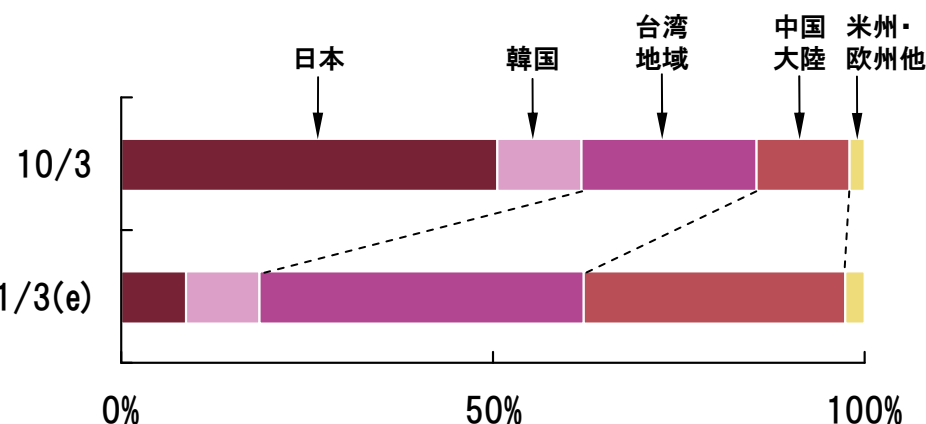
## 10年度基本戦略

1. 既存製品の競争力向上と新製品投入による事業拡大(新型実装機・ハードディスク検査装置)
2. 新規事業の開発加速(有機EL製造・検査装置)
3. 市場変動に強い事業体制への転換(中国営業力強化・コスト競争力強化)

## 主要製品群別売上高の推移



## 液晶関連製造装置 地域別売上高比率



- ・液晶関連の10年度の投資の中心は、台湾地域・中国大陸へシフト
- ・HD関連の09年度は生産改善が中心で、10年度は増産投資により大幅増

# HD検査:新コンセプトによるブレークスルー

## 【光学方式メディア検査装置】 ディスク全面検査による品質向上と検査コスト低減



	新コンセプト装置	従来装置
検査方式	<p>HDD ディスク 全トラック 光学式検査</p>	<p>抜き取りトラック 電気特性検査 (検査ヘッド)</p>
検査エリア	全面検査 (品質向上)	全トラックの1%
消耗品	検査用ヘッド不要 (検査コスト低減)	検査用ヘッド使用

シェア拡大  
20%UP

## 【ヘッド素子形状検査装置】 ヘッド組立前工程での検査による生産性向上



	新コンセプト装置	従来装置
ヘッド工程	<p>HDD ヘッド ウェーハ 分断</p>	<p>スライダー 組立</p>
検査方式	ヘッド素子形状測定	電気特性測定
特徴	前工程での検査 (歩留り向上・コスト低減)	最終組立工程検査

ヘッド検査の  
新市場創出

# 2011年3月期業績予想(科学・医用システム) 分析関連事業

日立ハイテク  
HITACHI

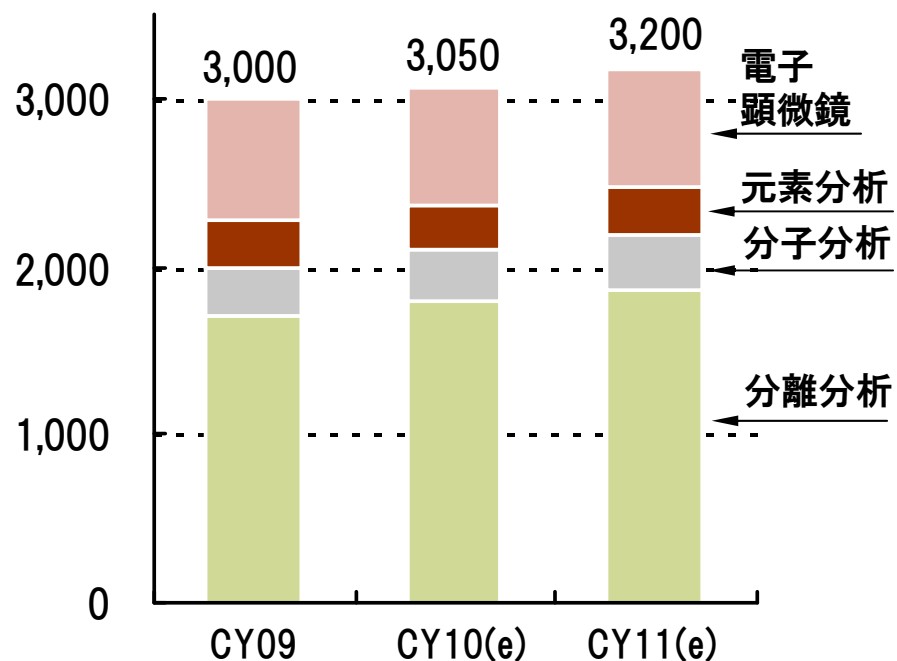
## 10年度基本戦略

1. 成長市場(燃料電池、太陽電池、LED、製薬等)への積極的な拡販
2. バイオ系顧客への解析装置の販売強化及び半導体・材料顧客への汎用分析装置の拡販

### 分析関連市場概況(当社関連)

(億円)(売上ベース)

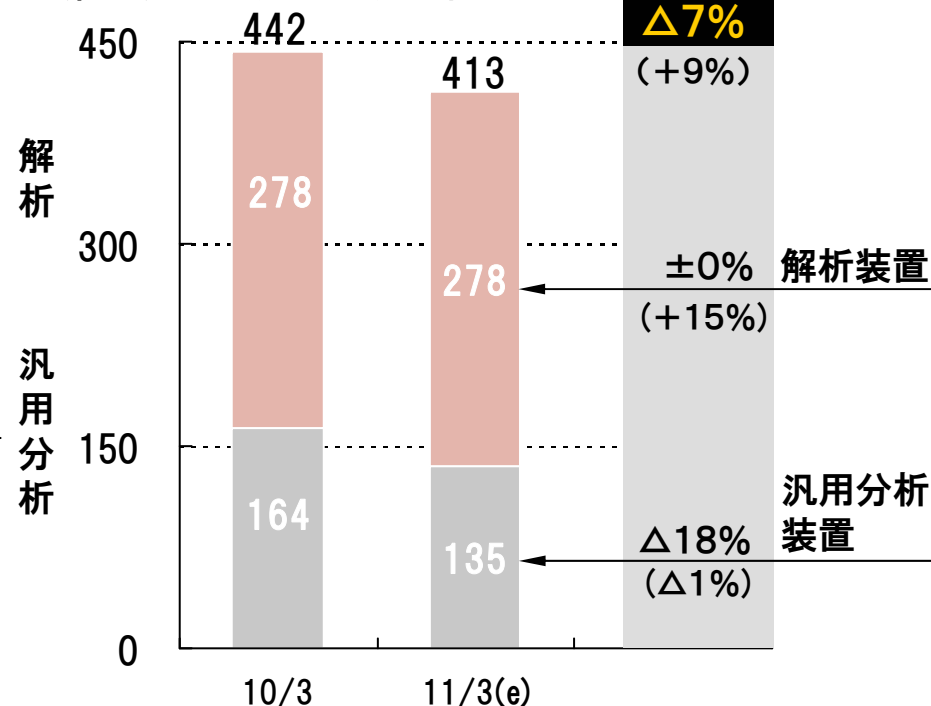
CAGR 3%



### 売上高の推移

(億円) ( )補正予算影響を除く

前年同期比  
△7%



(出所) SDi Global Assessment Report, Edition 10.5 等を基に当社推定

Copyright©2010 Hitachi High-Technologies Corporation All Rights Reserved.

# 2011年3月期業績予想(科学・医用システム) バイオ・メディカル事業

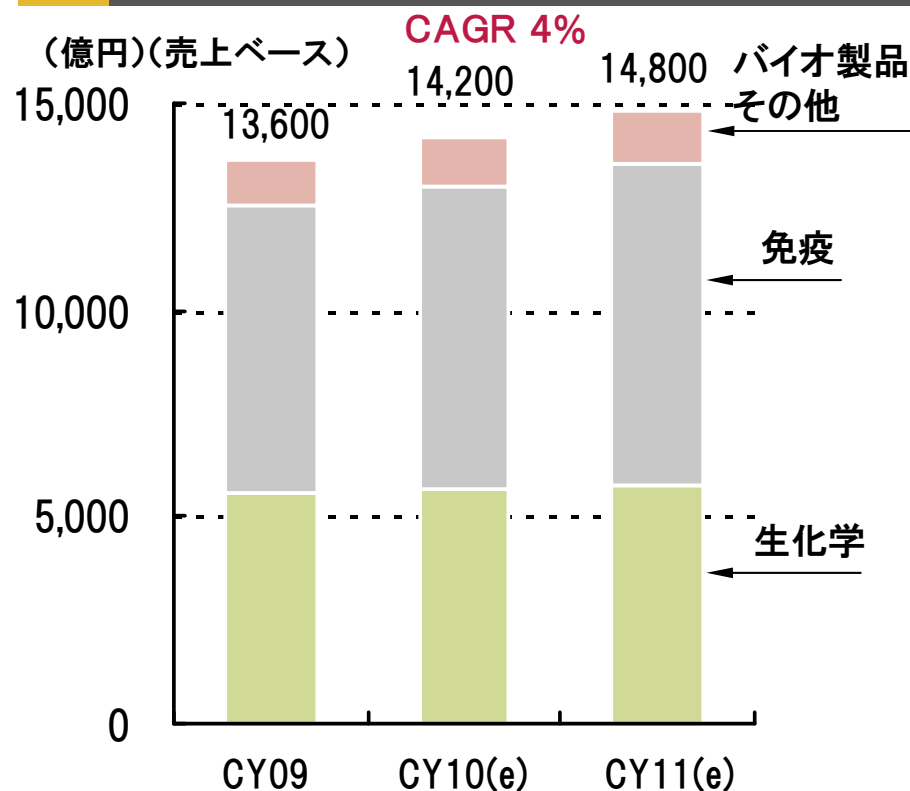
日立ハイテック  
HITACHI

## 10年度基本戦略

1. 国内外の有力メーカーとのSCB<sup>\*</sup>の推進
2. 装置+試薬のシステム販売の推進(中国・日本)

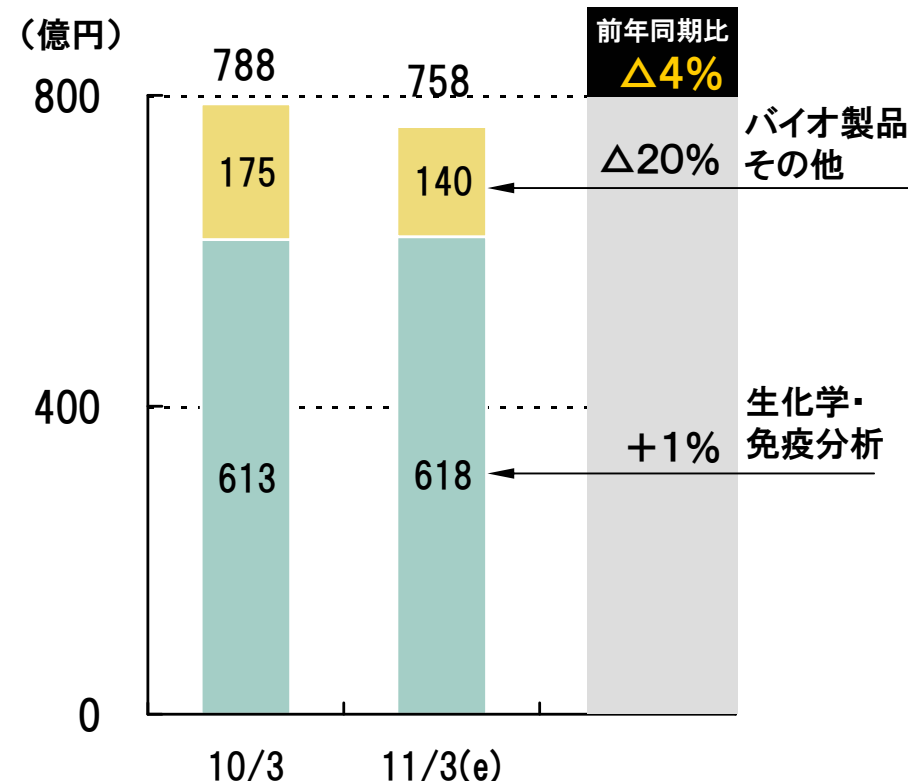
\*SCB: System Collaboration Business

## バイオ・メディカル関連市場概況(当社関連)



(出所)Kalorama Information 6th Edition(2008)他を基に当社推定(試薬、装置含む)

## 売上高の推移



Copyright©2010 Hitachi High-Technologies Corporation All Rights Reserved.

# 遺伝子検査の自動化プラットフォーム技術 ～有力メーカーとのSCBの推進～

## ● 遺伝子検査とは

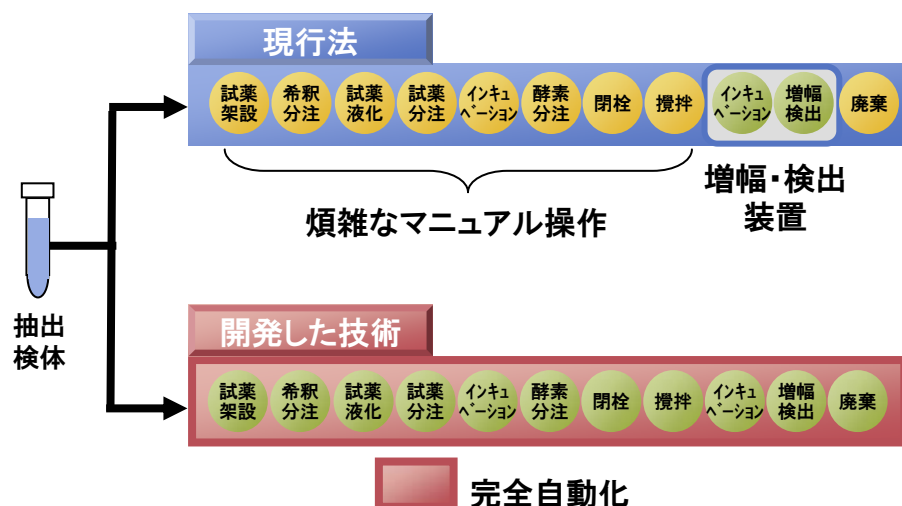
病原微生物の遺伝子(核酸)の種類、感染程度(量)を測定することにより、感染症等の早期発見、早期治療が可能

具体例:感染症検査

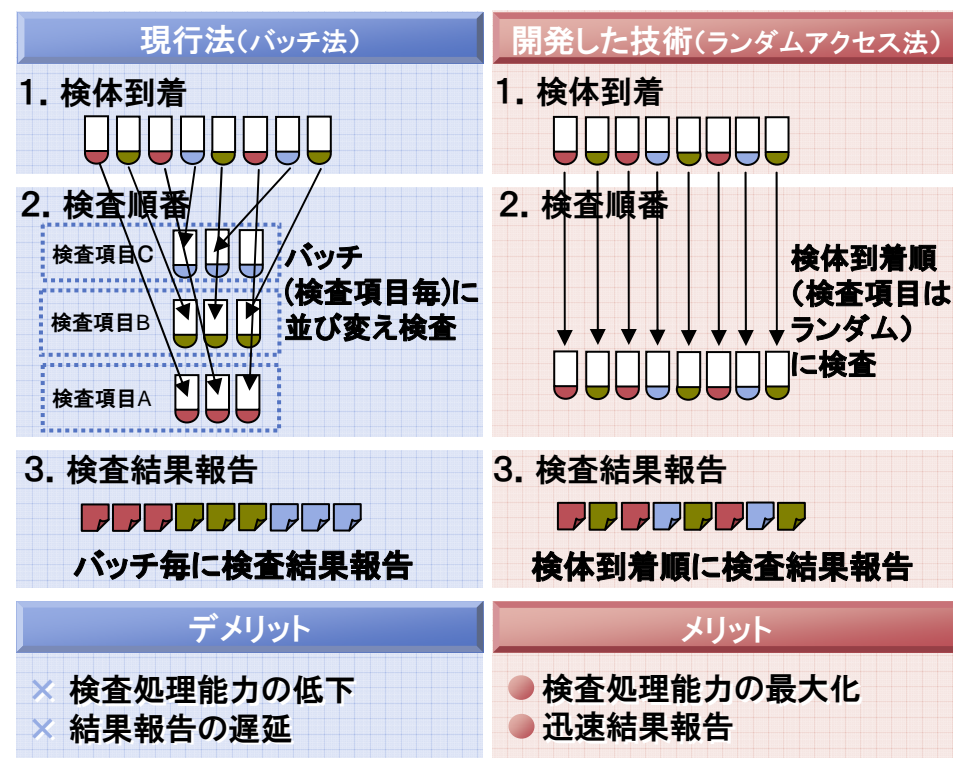
遺伝子検査	操作性	迅速報告
現行法	×	△
開発した技術	○	○

## ● 技術の特徴

### 1. 煩雑なマニュアル操作を完全自動化



### 2. ランダムアクセス化による報告の迅速化



## ● 今後の進め方

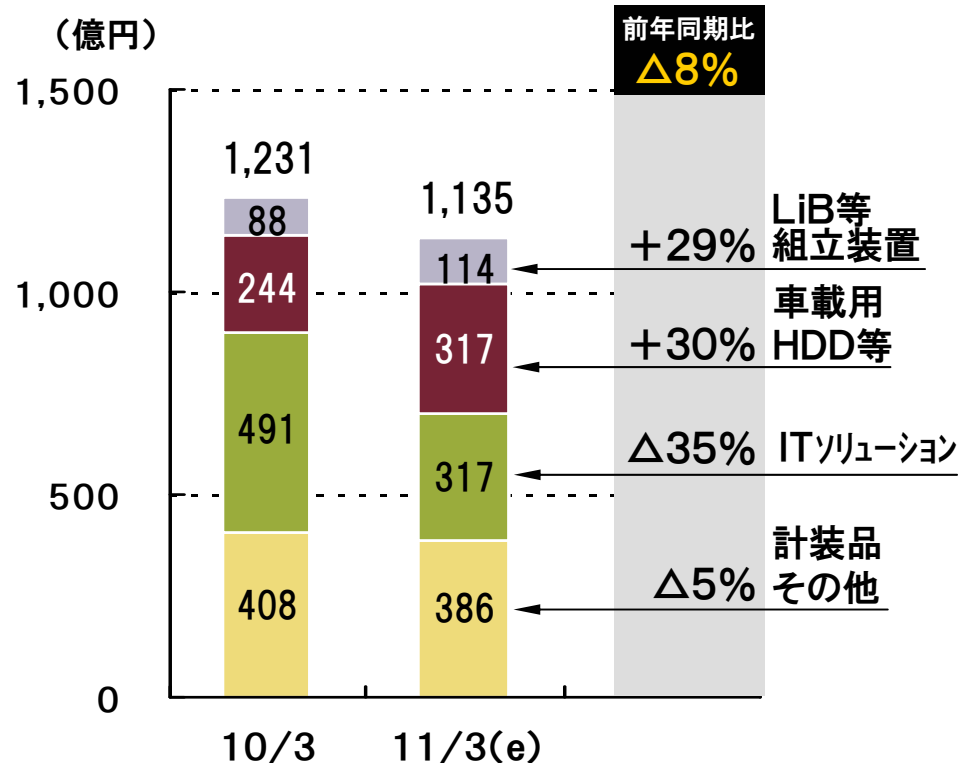
- ・ 試薬メーカーとのコラボレーション推進
- ・ 11年度上市予定(研究市場)

# 2011年3月期業績予想 (産業・ITシステム) (先端産業部材)

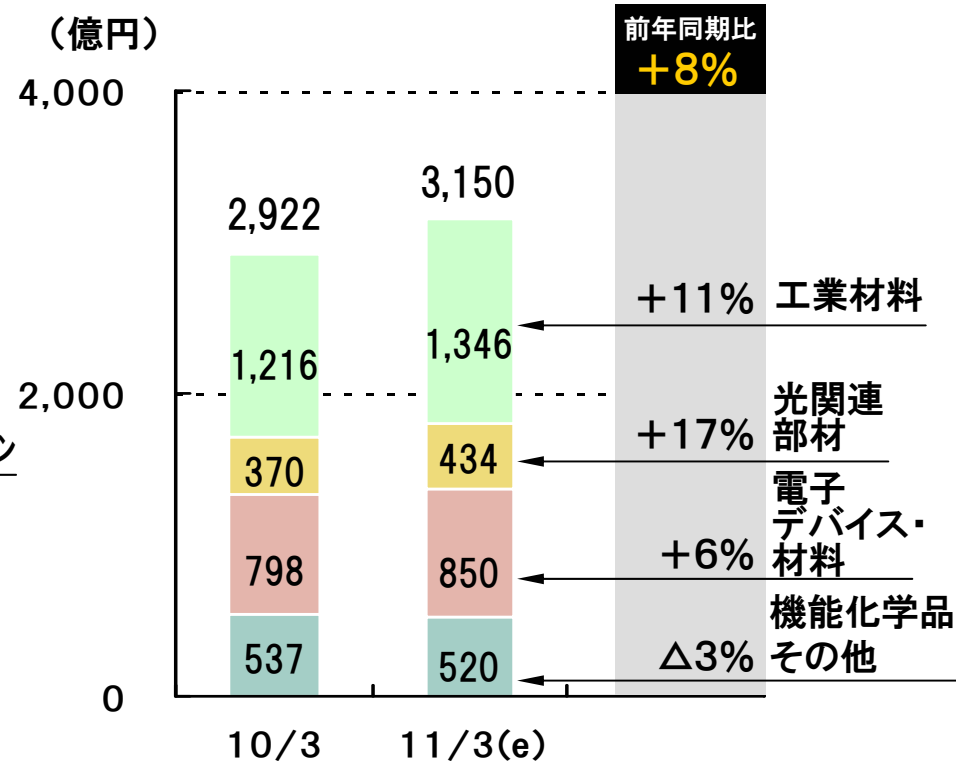
## 10年度基本戦略

1. 環境エネルギー事業の拡大(PV・リチウムイオン電池等)
2. 成長地域戦略の加速(BRICs～VISTA)

### 産業・ITシステム 売上高の推移



### 先端産業部材 売上高の推移





# 環境・エネルギー事業の取組みについて

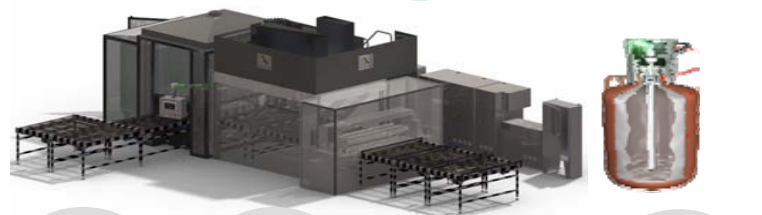
## PV関連装置・材料事業の拡大（米ゼロコート社との戦略的パートナーシップ確立）

### PV用ARコート塗布装置および材料

塗布装置



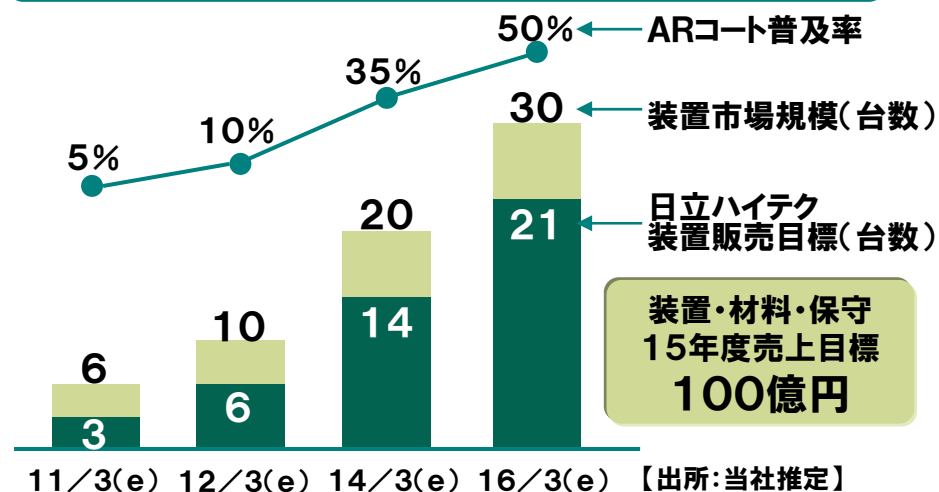
材料



- ・米国ベンチャー企業
- ・装置(常温塗布)+材料(化学結合)

### 事業目標

反射防止膜塗布装置市場の シェア70%(15年度)



装置・材料・保守  
15年度売上目標  
100億円

### 技術比較

方式	ゼロコート社	スパッタ/CVD	エッチャー	Sol-Gel
効率(垂直)	○	○	△	△
プロセス容易性	○	×	×	×
コーティング価格	200¥/m <sup>2</sup>	400¥/m <sup>2</sup>	500¥/m <sup>2</sup>	600¥/m <sup>2</sup>

【出所: 当社推定】



### 商社機能と自社製品機能の融合



## IV

## 参考：データ集

(注)YY/MはYY年M月期を表しています。

# 四半期業績の推移

(億円)

	08年1Q	08年2Q	08年3Q	08年4Q	09年1Q	09年2Q	09年3Q	09年4Q
売 上 高	1,829	2,404	1,633	1,883	1,325	1,492	1,451	1,901
営 業 利 益	19	106	23	1	△38	△38	4	56
経 常 利 益	26	113	30	△4	△32	△37	8	57
当 期 利 益	△2	78	20	△25	△20	△33	△3	28

## ■セグメント別売上高

(億円)

	08年1Q	08年2Q	08年3Q	08年4Q	09年1Q	09年2Q	09年3Q	09年4Q
電子デバイスシステム	250	612	327	494	200	233	238	470
ライフサイエンス	248	243	213	273	207	233	217	297
情報エレクトロニクス	443	616	420	558	352	398	384	462
先端産業部材	888	933	673	558	566	628	613	672

# 設備投資額・減価償却費・研究開発費

(億円)

	09/3	10/3	前年同期比	11/3(e)	前年同期比
設備投資額	122	94	△23%	118	+26%
減価償却費	95	96	+1%	103	+8%
研究開発費	215	193	△10%	222	+15%

(注)設備投資額は取得ベースにて記載

## 前年同期比 増減説明(09年度)

設備投資額:29億円減少

・那珂事業所新製造棟建設等

研究開発費:22億円減少

・電子デバイスシステム、ライフサイエンスの要素技術開発等

# 09年度売上高実績(新旧セグメント)リステート明細表

(単位:億円)

No.	セグメント		サブセグメント		09年度実績		(b)-(a)	主な変更対応 項目No.
	旧	新	旧	新	(a)旧	(b)新		
1	電子デバイスシステム	電子デバイスシステム	プロセス装置	プロセス製造装置	201	204	3	8
2			評価・解析装置	評価装置	519	242	△ 277	11
3				後工程・実装装置	0	138	138	8,16
4				合計	720	584	△ 136	
5		ファインテックシステム	液晶関連製造装置	FPD関連製造装置	224	272	48	8
6			HD関連製造装置	HD関連製造装置その他	17	31	14	8
7				合計	241	303	62	
8			その他		180	0	△ 180	3,5,6,21,28
9			合計	1,141	887	△ 254		
10	ライフサイエンス	科学・医用システム	バイオ・分析	汎用分析機器		164		13
11				解析装置	213	278	229	2
12			メディカル	生化学・免疫分析装置		613		
13				バイオ製品その他	708	175	80	10
14			その他		34	0	△ 34	10,11,12,13,28
15				合計	955	1,230	275	
16	情報エレクトロニクス	産業・ITシステム	組立装置	LiB等組立装置	162	88	△ 74	3
17				車載用HDD等	0	244	244	18
18			情報システム	ITソリューション	733	491	△ 242	17
19			半導体		193	0	△ 193	24
20			メディアデバイス		176	0	△ 176	24
21			その他	計装品その他	331	408	77	8,28
22				合計	1,595	1,231	△ 364	
23	先端産業部材	先端産業部材	工業材料	工業材料	1,168	1,217	49	26
24			電子デバイス材料	電子デバイス・材料	526	798	272	19,20,26
25			光関連部材	光関連部材	357	370	13	26
26			その他	機能化学品その他	427	537	110	23,24,25,28
27				合計	2,478	2,922	444	
28	消去または全社				0	△ 100	△ 100	8,14,21,26
29	全社合計				6,169	6,169	0	

<資料取り扱い上の注意>

- ① 本プレゼンテーションで述べられている決算概要及び業績予想は、注記がある場合を除き、すべて連結です。
- ② YY/M(e)はYY年M月期予想を表しています。
- ③ 数値情報は、億円未満を四捨五入しています。
- ④ 本プレゼンテーションで述べられている将来の当社業績に関する予想は、現時点で知りうる情報をもとに策定されたものです。当社の参画する産業界はテクノロジーの変化が速く、競争の激しい産業です。また、世界経済、半導体市況、為替相場など、当社の業績に直接的・間接的に影響を与える様々な外部要因があります。したがって、今後、当社の業績が本プレゼンテーションと異なる可能性があることをお含みおください。但し、大きな変動がある場合は、証券取引所の適時開示規則及び当社の自発的判断等に基づき、その都度公表していく所存です。

また、この資料は投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。銘柄の選択、投資の最終決定は、ご自身の判断でなさるようお願いいたします。



# END

---

## 2010年3月期 決算説明会

お問合せ先  
社長室 広報・IRグループ 部長代理 加藤 弘之  
TEL:03-3504-5138 FAX:03-3504-5943  
E-mail:kato-hiroyuki@nst.hitachi-hitec.com

**日立ハイテク**

最先端を、最前線へ。